

研究テーマ 【共通事項】の「形」「色」「イメージ」を重点に基礎的な能力を
 培う学習指導の工夫
 ～小学校第 2 学年「雪がふったよ」の実践を通して～

下妻市立下妻小学校 教諭 落合 志津子

I 研究テーマについて

私は、図工の時間が待ち遠しい、楽しいという子どもを育てたいと考えている。そのためには、つくる喜びを味わわせるとともに、子ども一人一人の思いや願いを表現できる造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することが大切になってくる。そこで、身近な用具や材料を使って、造形的な創造活動の基礎的な能力を高めることが子ども一人一人の思いや願いを表現できることにつながるのではないかと思う。

一昨年 1 年生を担当して、工作の題材において児童の用具（はさみ）の使い方があまり身に付いていないと感じた。実際に切って表現する時に、思うようにはさみが使えず、途中であきらめてしまう児童がいた。そのことから、児童は豊かな発想をすることはできるが、表したいことを絵や工作に表現することにつまずき、造形活動を楽しめなかったり、作り出す喜びが味わえなかったりするのではないかと考えた。造形的な創造活動をするための基礎的な能力を培うために、まず、児童一人一人が自分の表したいものを、用途や目的に合わせて用具を使用できることが大切である。「A 表現」の中でも「ウ造形的な技能」に注目し、さらにその技能が高まり、造形的な創造活動の基礎的な能力が培われるのではないかと考え、この研究テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 「雪がふったよ」

2 題材の目標

- 楽しく雪の結晶をつくったり、絵を描いたりしようとしている。
 （造形への関心・意欲・態度）
- 雪の結晶の周りにクレヨンで自由に楽しく絵を描くことができる。
 （発想・構想の能力）
- はさみを自在に動かし、自分の思うように雪の結晶をつくることができる。
 （創造的な技能）
- 絵の具のにじみ技法を使い、雪の結晶を彩色することができる。
 （創造的な技能）
- ミニ鑑賞会や終末の鑑賞会を実施して、「形」、「色」、「イメージ」の 3 つの視点を基に鑑賞することができる。
 （鑑賞の能力）

3 題材について

(1) 児童の実態 （2 年 3 組 33 名 平成 28 年 1 2 月 7 日調査）

1	図工は好きですか。	
	好き 24 名 ふつう 8 名 きらい 1 名	
2	雪の結晶を見たことがありますか。	
	ある 19 名 ない 14 名	
3	はさみが上手に使えますか。	
	上手に使える 17 名 使えない 2 名	
4	絵の具のにじみを使って描いたことがありますか。	
	ある 3 名 偶然にできた 5 名 ない 25 名	
5	鑑賞会で「形」「色」「イメージ」を意識して鑑賞していますか。	
	意識している 6 名 意識していない 27 名	

本学級の児童は、アンケートの結果からは、図工が「好き」が 24 名（72.7%）と多い。絵を描いたり、工作をつくったりする活動で意欲的に取り組むことができる。はさみの使い方では上手に使える児童は 17 名（51.5%）で、はさみを自在に使える児童が半数いることがわかった。また、絵の具のにじみを使って描いたことがない児童が 25 名（75.7%）と多いことがわかった。そして、「形」「色」「イメージ」の視点を意識して鑑賞したかどうかでは、意識していない児童が 27 名（81.8%）と多かった。

(2) 題材観

本題材は、「雪がふったよ」ということで、雪の結晶を画用紙で大きくはさみで切り取り、その切り取った雪の結晶に、絵の具のにじみを使って彩色する。その雪の結晶を暗いあい色の色画用紙に貼り、その周りに雪がふった様子をクレヨンで自由に描く題材である。雪の結晶では、切り取り方を試行錯誤し、結晶の形も工夫できるようにする。また、絵の具でにじみの作り方を体験し、色が混ざる・にじむおもしろさを味わうことができるようにする。また、鑑賞では、「形」「色」「イメージ」の三つ視点で鑑賞をさせたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、児童の実態より、用具のはさみを上手に使えるようにしたいと考えた。形のむずかしい雪の結晶の形に挑戦させ、はさみで切り取る体験活動を1時間入れたい。児童の思い思いのいろいろな雪の結晶の形づくりをさせたい。「形」「イメージ」から雪の結晶の「形」づくりを楽しみたい。その形に、絵の具の技法のにじみをつくり、雪の結晶を彩色する。にじみでは、色と色の混ざり方や色のにじみを楽しみたい。にじみの体験活動を1時間入れ、「色」づくりの体験もする。鑑賞活動は、ミニ鑑賞会や終末の鑑賞会を設定し、「形」「色」「イメージ」の視点をもとに、自分や友達の作品を味わえるようにしたい。

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・雪の結晶に関心をもち、自分でイメージをふくらませようとする。	・雪の結晶の周りに雪の精や雪だるまや人物などを自由に発想し、楽しく描くことができる。	・自分の思っている雪の結晶を工夫してはさみで切り抜くことができる。 ・雪の結晶に絵の具でにじみをつかって彩色することができる。	・雪の結晶の「形」や「色」の美しさやおもしろさに気付くことができる。 ・作品の「イメージ」を伝えることができる。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

※○印は時数

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージした雪の結晶を考えることができる。 ・雪の結晶をはさみを使ってつくる。 ・ミニ鑑賞会で、友だちの作品の工夫したところを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の結晶に関心をもち、自分でイメージすることができる。 【関】【作品・観察】 ・自分の思っている雪の結晶をはさみを使って工夫して切り抜くことができる。 【技】【作品・観察】 ・雪の結晶の形の美しさやおもしろさに気付き、雪のイメージについて伝え合うことができる。 【鑑】【観察・対話】
第2次 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の結晶の形に切り抜いた形に絵の具でにじみを使って色をつける。 ・ミニ鑑賞会で、友だちの作品の工夫したところを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具でにじみをつかって色をつけることができる。 【技】【作品・観察】 ・雪の結晶の色の美しさやおもしろさに気付き、雪のイメージについて伝え合うことができる。 【鑑】【観察・対話】
第3次 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の結晶を画用紙に貼り、周りに人物や雪だるま、雪の精などを描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の結晶の周りに精や雪だるまや人物などを自由に楽しく描くことができる。 【想】【作品・観察】
第4次 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作品の工夫したところを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作品の工夫したところを「形」・「色」・「イメージ」について鑑賞カードに書くことができる。 【鑑】【鑑賞カード】

6 指導の実際

(1) 目標

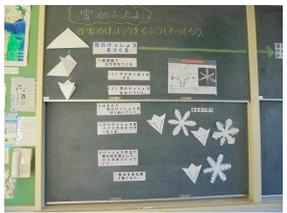
自分のイメージした雪の結晶を切り抜き、にじみ技法で彩色し、周りに絵を描くことができる。また、「形」や「色」、「イメージ」の三つの視点で鑑賞することができる。

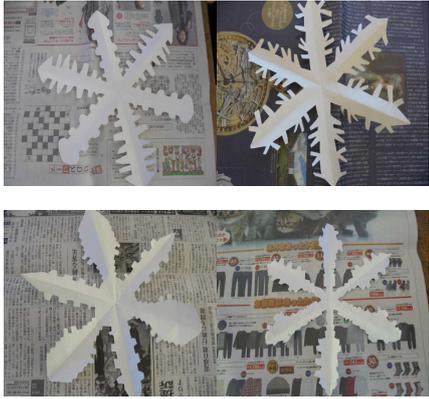
(2) 準備・資料

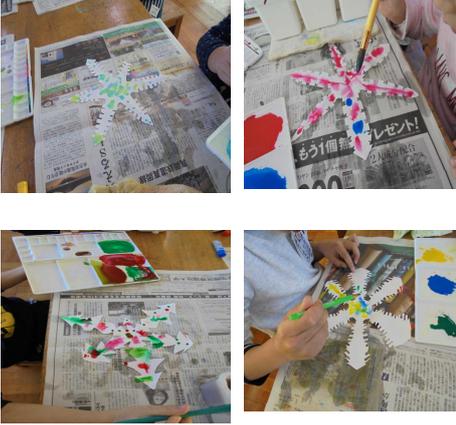
薄めの画用紙（八つ切り・白）、上質紙、はさみ、のり、台紙用画用紙（八つ切り・あい色）、水彩絵の具、クレヨン、新聞紙、鑑賞カード、ピンク・黄色・水色の付箋紙、雪の結晶の作り方の見本資料、板書カード、参考資料

(3) 展開

（○は全体に対して、◎は個に対しての支援、**評** 評価）

配時(分)	学習活動・内容	主な教師の提案 (T)・児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価
5	1 雪の結晶について話し合う	(T) 「雪の結晶を見たことがある人はいますか。」 (C) 「窓ガラスにはりついてたよ。」 (C) 「雪の結晶は小さくてきれい。」	○ 雪の結晶について見たことがある児童に話を聞く。
75	2 自分のイメージした雪の結晶をつくる。 ・ナプキン折りをする  ・形を鉛筆でかく  ・はさみで切る  ・切った紙を開く 	(T) 「雪の結晶をつくります。」 (C) 「むずかしそう。」 (T) 「雪の結晶を最初は上質紙でつくります。」 (C) 「ナプキン折りがなかなかできないよ。」 (T) 「ナプキン折りの上から、雪の結晶の形をかき、はさみで切りましょう。」  (C) 「紙が薄いけど、6まい重ねるからはさみで上手に切れないよ。」 (C) 「紙を切ったらバラバラになっちゃったよ。」 (C) 「もう一度やりたいな。」 (T) 「失敗したらもう一度挑戦しよう。」 (C) 「違う雪の結晶をつくりたいな。」 (C) 「いろいろな雪の結晶をつくりたいな。」 (C) 「いろいろな形ができて楽しいな。」  	○ 雪の結晶を上質紙を使って切り抜くことを知らせ、自分のつくりたい形を考えさせる。 ○ 雪の結晶の作り方の順序を説明し、自分ではさみを使い続ける。 ○ ナプキン折りの仕方、雪の結晶の形のかき方、はさみでの切り方を黒板に見本の形を見せながら製作させる。 評 雪の結晶に関心を持ち、自分でイメージすることができる。 関 (観察・作品) ◎ はさみが上手に切れない児童には、はさみを使う際、使うポイントを個別に助言する。 ◎ どうしてバラバラになったか聞き、形をかくときの失敗では改善して、もう一度挑戦するようにする。 ○ 失敗しても何回でも挑戦できるように紙を十分に用意しておく。 ○ 形が決まったら、上質紙から、画用紙に切り替えてつくる。

		 <p>(C)「ギザギザの形がおもしろいな。」</p>	<p>○上質紙では、失敗したけれど、何回かつくるうちにつくるコツがつかめるようにする。</p> <p>評 自分の思っている雪の結晶の形を、はさみを使って工夫して切り抜くことができる。</p> <p>技 (観察・対話)</p>
10	3 ミニ鑑賞会をしよう	<p>(T)「友達の作品を鑑賞しよう。」</p> <p>(T)「グループの友達の作品を見てみよう。」 「友達の作品を見る時にどんな形かな？ どんな感じ(イメージ)にみえる？ 2つの点で見てみよな。」</p> <p>(C)「形がとげとげしていてかっこいいよ。」</p> <p>(C)「三角や矢印の形がいっぱいある感じ。」</p> <p>(C)「きれいだね。」</p> <p>(C)「ツリーの形に似ているね。」</p>	<p>○切り取った形をみて「形」や「イメージ」の2点について鑑賞させる。</p> <p>◎友達の作品をみて、「どんな形にみえる？」「どんな感じにみえるか？」と個別に声かけしていく。</p> <p>評 雪の結晶の形の美しさやおもしろさに気づき、伝え合うことができる。</p> <p>鑑 (観察・対話)</p>
40	<p>4 絵の具で「にじみ」の練習をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を水でぬらす ・パレットに3色の絵の具を出す ・画用紙に絵の具をたらす 	<p>(T)「絵の具でにじみの練習をします。」</p> <p>(T)「好きな色3色をパレットに出しましょう。」</p> <p>(C)「色は混ぜてつくってもいいですか。」</p> <p>(T)「いいですよ。」</p> <p>(T)「好きな色を筆にとり、ぬらした画用紙にたらしにじみをつくりましょう。」</p>  <p>(C)「黄のとなりに赤をおいてみよう」</p> <p>(C)「色がにじんできれい。」</p>	<p>○四つ切りの4分の1の画用紙を用意し、一人ずつ配布する。</p> <p>○画用紙はバケツの中に入れて水にぬらしておく。そのぬらした画用紙を新聞紙の上に準備する。</p> <p>◎パレットに3色の絵の具を出す時は、大きな面に出し、混ぜてつくってもよいことを知らせる。</p> <p>◎色をつけた近くに次の他の色を置き、にじみを意図的につくることができるよう助言する。</p> <p>評 絵の具でにじみをつくることができる。</p> <p>技 (作品・観察)</p>

<p>40</p>	<p>5 雪の結晶に にじみを使って 色をつけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 雪の結晶の画用紙をバケツの水の中に入れてぬらす。 パレットに3色を出す。 画用紙に絵の具をたらす。 	<p>(T)「雪の結晶をにじみを使って色をつけましょう。」 (T)「前の時間に練習したにじみを、今度は、雪の結晶の画用紙にやってみよう。」 (C)「色を替えてもいいですか。」 (T)「前の時間に取り組んだ色でない色でもいいですよ。」 (T)「自分の思ったように色をおいていきましょう。」</p>  <p>(C)「小さい画用紙で練習したので、すぐできた。」 (C)「違う色でやってみたい。」 (C)「白を混ぜてやっていいですか。」 (T)「いいですよ。」</p>	<p>○バケツをグループで1つ用意し、雪の結晶の形に切り抜いた画用紙をバケツの水の中に入れて、平均的にぬらすようにする。 ○新聞紙の上に雪の結晶の画用紙をのせ、余分な水分をとるようにする。</p> <p>○いろいろな色で挑戦できるようにする。</p> <p>◎小さな画用紙で練習したことを生かしていくよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評 絵の具でにじみを工夫してつくることのできる。 技 (作品・観察)</p> </div>
<p>10</p>	<p>6 ミニ鑑賞会 をしよう</p>	<p>(T)「友達の作品を鑑賞しよう。」 (T)「グループの友達の作品を見てみよう。」 「友達の作品を見る時に どんな色かな？ どんな感じ(イメージ)にみえる？ 2つの点で見てもよね。」 (C)「ピンクと青がにじんできれいな色になった。」 (C)「とても明るい色。」 (C)「いろんな色が混ざりあってたくさん色ができた。」</p>	<p>○彩色した色をみて「色」や「イメージ」の2点について鑑賞させる。</p> <p>◎友達の作品をみて、「どんな色にみえる？」「どんな感じにみえるか？」と個別に声かけしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評 雪の結晶の色の美しさやおもしろさに気付き、伝え合うことができる。 鑑 (観察・対話)</p> </div>
<p>45</p>	<p>7 周りに自由に 絵を描こう</p> <ul style="list-style-type: none"> 雪の結晶を画用紙に貼る 雪の結晶の周りに絵を描く 	<p>(T)「雪の結晶を画用紙に貼り、その周りに絵をかきましょう。」 (T)「まず、雪の結晶をあい色の画用紙にのりで貼みましょう。」 (C)「雪の結晶をどこに貼ればいいですか。」 (C)「貼りたいところでもいいです。」 (T)「クレヨンで描きましょう。」</p>	<p>○雪の結晶をあい色画用紙に貼る場所は、周りに絵を描くものによって、貼る位置を考えさせる。</p> <p>◎どこに貼るか悩んでいる児童には、どんなものを周りに描くか聞いて助言する。</p>

		  <p>(C)「ぼくはサンタクロースをかきたいな。」</p>  <p>(C)「わたしは雪だるまをかきたいな。」</p>	<p>○「雪がふったよ」の自分のテーマを考えさせ、描く内容を決めて描かせる。</p> <p>◎何を描くか悩んでいる児童には、自分のテーマは何か、雪の精や雪だるま、自分や友達など描きたい内容を聞き出しながら助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>◎雪の結晶の周りに自由に楽しく描くことができる。 想 (作品・観察)</p> </div>
<p>4 5 (1 5)</p>	<p>8 鑑賞会を開こう</p> <p>・自分の作品について</p> <p>(1 5)</p> <p>・グループの友達の作品について</p>	<p>(T)「鑑賞会を開きます。」 「ほめほめカードを使っていきます。」</p> <p>(T)「まず自分の作品について鑑賞しましょう。」</p> <p>(T)「ほめほめカードに自分の作品に題名をつけましょう。」</p> <p>(C)「わたしは、＜クリスマスがやってきたよ＞という題にしました。サンタクロースやトナカイも描きました。」</p> <p>(C)「わたしは、＜雪だあいすき＞という題にしました。雪が降っているようにしました。雪の中で遊んでいるみたいです。」</p> <p>(T)「自分の作品の形・色・どんな感じの3つについてくふうしたところや上手にできたところをカードに書きましょう。」</p> <p>(C)「雪の結晶がにじんできれいな色になりました。」</p> <p>(C)「こおりみたいな形、ギザギザしている形にしました。」</p> <p>(C)「クリスマスになった感じになってよかったです。」</p> <p>(T)「次にグループの友達の作品について、付箋紙を使って鑑賞しましょう。」</p> <p>(T)「付箋紙の3つの色ごとに鑑賞し</p>	<p>○出来た作品を自分の前にグループの真ん中に各自置き、作品が鑑賞しやすいようにする。</p> <p>○鑑賞は、自分→グループ→クラスと3段階で進めていく。</p> <p>○鑑賞シート（ほめほめカード）を使い、「形」「色」「どんな感じ」の3つの観点で記入させる。</p> <p>○鑑賞する際に、自分の題名をつけることで、どんな思いがあるのかがわかるので、題名をつけさせる。</p> <p>○「形」「色」「イメージ」の3つの視点で自分の作品を鑑賞させる。</p> <p>◎視点で書けない児童には、それぞれにどんな形や色になっているか個別に声かけながら助言する。</p> <p>○鑑賞する際に、友達の作品に関しては、3色の付箋紙を一人5枚ずつ配る。</p>

<p>(15)</p>	<p>・クラスの友達 の作品について</p>	<p>て、友達の作品に貼りましょう。」</p> <p>(T) 「付箋紙は、黄色は「形」、ピンクは「色」、水色は「イメージ」に書いて友達の作品に貼っていきます。」</p> <p>(C) 「緑や青を使って、きれいな色の組み合わせです。」</p> <p>(C) 「すごくギザギザでおもしろかったです。」</p> <p>(C) 「雪だるまの後ろに家があって、プレゼントをとどけた感じです。」</p> <p>(T) 「最後にクラス全体の友達の作品を鑑賞しましょう。」</p> <p>(T) 「グループの友達の作品を鑑賞した時と同じように、付箋紙を持ってクラス全体を見て回り鑑賞しましょう。」</p>  <p>(C) 「とても楽しそうに見える。友達と雪だるまをつくって楽しそうでいいね。」</p> <p>(C) 「雪だるまが雪の結晶を見ているみたいで、くふうしたと思う。」</p> <p>(C) 「雪の結晶の切り取られているところがハートでかわいい。」</p> <p>(C) 「小人の色がすごくきれい。」</p>	<p>○付箋紙は、黄色は「形」、ピンクは「色」、水色は「イメージ」の3つの視点で使用させる。</p>  <p>○グループの友達の作品の鑑賞と同様、付箋紙は色別に、形・色・イメージの3視点について同じように使用させる。</p> <p>◎クラス全体の作品を見て回り、自分で気に入った作品について、書けない児童については、3視点の一つについて言葉かけをして付箋紙に書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>⑦ 自分や友達の作品の「色」・「形」・「イメージ」について工夫したところを見付けることができる。</p> <p style="text-align: right;">鑑 (鑑賞カード・観察)</p> </div>
-------------	----------------------------	--	--

III 研究の成果と課題

1 成果

(1) 事後アンケートの結果から

事後アンケートの実施 2年3組 33名 平成28年12月19日調査

- | | | | | |
|---|-------------------------------|-----|----------|----|
| 1 | 図工は好きですか。 | | | |
| | 好き | 30名 | ふつう | 3名 |
| | | | きれい | 0名 |
| 3 | 雪の結晶をはさみで上手に切り取れましたか。 | | | |
| | 上手に切り取れた | 25名 | ふつう | 7名 |
| | | | 切り取れなかった | 1名 |
| 4 | 絵の具でにじみを使って上手に描けましたか。 | | | |
| | 上手ににじみができた | 27名 | 偶然にできた | 5名 |
| | | | できなかった | 1名 |
| 5 | 鑑賞会で「形」「色」「イメージ」を意識して鑑賞しましたか。 | | | |
| | 意識して鑑賞できた | 30名 | 意識していない | 3名 |

事前アンケートと比較してみると、「雪の結晶をはさみで上手に切り取れましたか。」という結果では「上手に切り取れた」児童が25名で75.7%で24.2%の上昇が見られた。雪の結晶づくりを2時間設定し、失敗しても何回もチャレンジして上質紙で練習できたので、上手に切り取れるようになってきたのではないかと思う。個人的に折り紙とかで家で練習してくる児童も見られ、関心も高かった。身近な用具(はさみ)や材料(画用紙・上質紙)の使用から、造形的な基礎的な技能の向上が見られた。

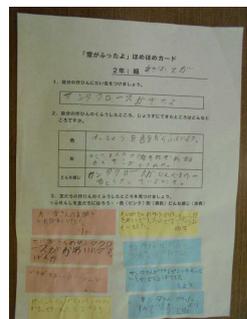
「絵の具でにじみを使って上手に描けましたか。」では、「上手ににじみができた」児

童が 27 名で 81.8 %で「偶然にできた」5 名も入れてほぼ全員がにじみ技法ができた。これも、小さな画用紙を用意し、にじみ技法の練習をさせることで、にじみ技法が習得できたのではないかと思う。身近な用具の絵の具を使って、その中のにじみ技法で造形的な基礎的な技能を向上させる手立てとなった。

「鑑賞会で「色」「形」「イメージ」を意識して鑑賞しましたか。」では、「意識して鑑賞できた」児童が 90.9 %と高くなった。ただ、漠然と鑑賞させるのではなく、3つの視点を示して鑑賞したので、その視点に沿って鑑賞できたことはよかった。

(2) 鑑賞カードの工夫とミニ鑑賞会・終末鑑賞会から

「形」「色」「イメージ」の3視点にしばり、ミニ鑑賞会、終末鑑賞会を実施した。ミニ鑑賞会では、2回実施し、雪の結晶の「形」「イメージ」(1回目)、「色」「イメージ」(2回目)を口答で伝え合う形とした。終末鑑賞会では、鑑賞カード(ほめほめカード)を工夫して使用した。①自分の作品の鑑賞→②グループの友達の作品の鑑賞→③クラスの友だちの作品の鑑賞に段階的に進めた。②と③の鑑賞には、色別の付箋紙を使用した。黄色は「形」、ピンクは「色」、水色は「イメージ」の3視点で付箋紙を使用した。児童は、3つの視点で鑑賞することができ、付箋紙は書いた友達へ渡し、自分の鑑賞カードに貼った。また、評価をする時に、言葉だけでは見とれないので記録に残るのでよいと思った。「形」「色」「イメージ」の3視点にしたことで、児童も、それぞれの視点において具体的に鑑賞できるようになった。また、「形」「色」「イメージ」の視点でのことばの語彙が豊富になったことも成果となった。

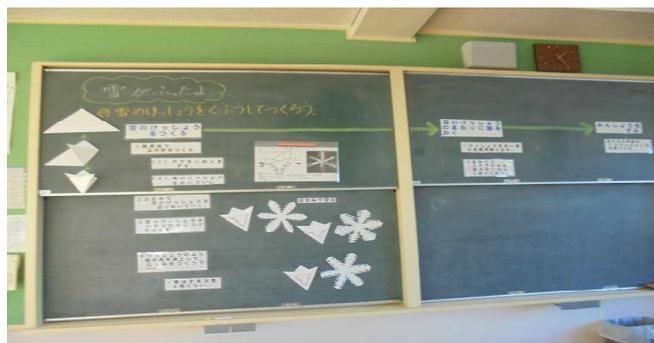


鑑賞カード

(3) 板書計画の工夫から

黒板を見れば、今どこをやっているか分かるようにユニバーサルデザインを意識した。特に第1次の雪の結晶づくりでは、作り方を言葉で簡単に順序で説明した。参考資料として、画用紙でナプキン折りの仕方と雪の結晶の見本も例示した。目で見て分かる板書にしたので、児童もスムーズに取り組むことができた。

前に出てきて、分からない児童も確かめながらできたこともよかった。



板書構成(第1次)

2 課題

(1) 創造的な技能の基礎的な能力の向上をさらに図る題材設定の工夫

今題材では、画用紙、上質紙の身近な材料やはさみ、クレヨン、絵の具の扱いやすい用具で題材を設定した。児童も雪の結晶をはさみで切り取るというちょっと難度のある題材であり、児童がやったことのない絵の具のにじみの技法を取り入れる題材であったが、そのような他の身近な材料、扱いやすい用具を使用しての創造的な技能を向上させるような題材を開発し、実践していきたい。

(2) 表現と鑑賞と相互に関連し合う指導過程の工夫

今題材では、ミニ鑑賞会を2回、終末鑑賞会を1回設定した。ミニ鑑賞会や終末鑑賞会を入れることで、「形」や「色」、「イメージ」についてのよさや美しさに気付き、その後の表現に生かすことができる。表現及び鑑賞の活動の中で、共通に働いている資質や能力が相互に関連していける指導過程を、今後工夫していきたい。

参考資料

- ・小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省 平成20年8月
- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校図画工作 文部科学省国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・まるごと図画工作2年 わかる喜び学ぶ楽しさを創造する教育研究所 2009年4月